

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	菅原 範明
視察地	愛知県
視察年月日	令和6年1月16日(火)
視察内容(目的・具体的内容・成果等)	
愛知県新体育館建設について	
<p>旭川市で計画されている花咲スポーツ公園の体育館の建替工事の参考とするために、建設工事が進められている愛知県新体育館を視察した。</p> <p>1964年に完成した愛知県体育館の老朽化により、新体育館の整備を進めることとなる。事業計画地は、名城公園北園の一部、建築面積26,500㎡、延床面積63,000㎡、4階(地上5階建)最高高さ41m、最大収容人数17,000人規模。</p> <p>事業方式はPFI手法(BTコンセッション方式)で、設計・建設はBT方式。維持管理・運営はコンセッション方式。事業手法は設計・建設とその後30年の維持管理・運営費を加えた額から、利用料金収入等を差し引いた額であるサービス購入料がいくらかになるか提案を受けた結果、愛知県が当初運営対価を200億と試算したところ、事業者側からBT額の試算額が400億円の提示があり契約が成立する。</p> <p>設計は世界的な建築家とグローバルアリーナ設計の豊富な実績を有する設計事務所が連携し、歴史と風格のあるデザインで世界最先端のアリーナ(※アジア1)を目指している。</p> <p>建物は、メインアリーナ(大相撲、バスケットボール、フィギアスケート等)サブアリーナ(県民のスポーツ活動の拠点)、多目的ホール(県民の文化活動の拠点)となっていて、2025年夏の開業を目指し工事が進められている。</p> <p>愛知県の新体育館は大規模なもので、旭川市が計画している体育館とでは比べものにはならないが、ここで注目したいのは、工事にあたってPFIを採用したことで、発注者側、請負側の両方にとって条件が優位に働いて大変興味深く写った。旭川市でも是非参考としていただきたい。</p>	

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	菅原 範明
視察地	三重県伊勢市
視察年月日	令和6年1月17日(水)
視察内容(目的・具体的内容・成果等)	

バリアフリー観光について	
<p>伊勢市は現在、人口は約12万人、古くから「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し「神宮ご鎮座のまち」として栄えてきた。伊勢市観光振興基本計画は、2025年度までに「多様な主体を受け入れ、常若の精神とにぎわいにあふれるまち」を目標として、市内を4つの主な観光エリア(※外宮エリア、内宮エリア、二見エリア、朝熊山エリア)に分け観光事業を展開している。</p> <p>NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターは、伊勢市と連携を取り長年バリアフリー観光向上事業に取り組んでおり、相談システム「パーソナルバリアフリー基準」を定めた。その内容は、行けるところに行くのではなく、旅行者が行きたいところ、楽しみたいことを実現するために、旅行者一人ひとりの状況にあわせて情報提供や旅行アドバイスを行う相談システムである。情報提供にあたっては、障がい者の数だけバリアの数はあるという考えに基づき、「段差があり、なし」などと画一的な基準ではなく、その施設の「バリア」をすべて調べあげ、ありのまま紹介しており、施設調査には障がいを持つ当事者たちにも参加してもらい、当事者が実際に体験した信頼できる情報を集めている。</p> <p>これまでにバリアフリー観光の取組として、手話ガイドボランティア研修、手話観光模擬ガイド、バリアフリー観光マップ作成、伊勢神宮内宮参拝が困難な方への車いす介助等を行う伊勢おもてなしヘルパー等を行っている。お伊勢さんマラソンに平成28年からバリアフリーランの部を新設し、公衆トイレの新設や視覚障害者に遠隔音声案内を行う改修等を行っており、長期間に渡り共生社会の実現に向けたまちづくりが展開されている。</p> <p>観光を通じて、福祉社会のあり方を徹底的に追求した伊勢市の取組を参考にし、本市のまちづくりにも大いに生かしていただきたいと考えます。</p>	

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	菅原 範明
視察地	三重県津市
視察年月日	令和6年1月18日(木)
視察内容(目的・具体的内容・成果等)	
サオリーナ建設について	
1 施設概要について	
<p>平成29年10月1日開館。設計選定に当たっては、公募型プロボザール。構成する3施設の規模は敷地面積95,019㎡、建築面積24,320㎡、延床面積29,171㎡。メインアリーナの収容人数は4,000名。施設周辺には、1.2kmのランニングロードを整備し、メインアクセス道路の整備を実施。他にサブアリーナ、アスリートモール、トレーニングルーム、フィットネススタジオ、屋内プール、多目的室、屋内ランニングコース、屋外展示場、屋外広場、バスケットボール他各種競技に合わせ使用出来る施設となっている。総事業費は約149億円。財源は合併特例事業債と一般財源。武道館は、柔剣道場と弓道場を備えている。メッセウイング・みえは、可動式間仕切壁により3分割可能な展示場を持つ県内有数のコンベンション施設で多様なイベントに対応が可能です。</p>	
2 施設の管理運営について	
<p>指定管理者として津市スポーツ・メッセネットワーク(ミズノ、ミズノスポーツ、国際警備保障)が管理運営に当たる。特にミズノは全国800施設の運営管理業務を行っており、独自開発した運動プログラムの導入などを進めていて、高い評価を受けている。</p>	
3 施設の利用状況、利用者の反応について	
<p>大相撲やB1リーグ、国内外の大会やジュニアの大会などにも対応できることから、市民は勿論のこと県内外からの評価が高い。地元、津市出身のオリンピック金メダリストの吉田沙保里氏「サオリーナ」という名称もユニークで市民から愛され、認知度が非常に高いと感じた。</p>	

現在、旭川市で計画されているアリーナ建設の参考に十分活かしていただき、国際的基準はもとより使用頻度が高く使い勝手の良い、市民からも愛される施設を目指していただきたいと思います。